



(資料:九州大学 栃原裕教授)

家庭内事故のすべてを自己責任と受け止めず、公的機関や製造者、施工者などに申し出ることが、事故対策の一步につながります。(山中龍宏・医師)。「溺死」というとかなり以前は、海水浴や河川での夏の事故であったのが、最近では「浴槽の中」の死亡者が大半であり、年代別では、高齢者が89%を占め、冬季に集中しています。(栃原裕・医学博士)。

特集 できてますか？ 家庭内事故対策

- 山中龍宏「1960年来、子どもの死亡1位は「不慮の事故」。親が目を離しても、安全な環境をつくる」
- 八藤後猛「現行基準では安全は保証できない。安全のデザインも建築家の仕事」
- 井上恵子「家庭内事故を未然に防ぐ工夫とは？ — 住まいの事故対策ノウハウ」
- 伊香賀俊治「屋根、壁の昼間の蓄熱が夜間に放出。室内の熱中症は夜間も要注意」
- 三宅康史「日本の夏そのものが変わってきた。高齢者にエアコンをいかにつけさせるか」
- 大阪府吹田市「熱中症搬送者は前年比の4倍！ 24時間稼働の「熱中症シェルター」
- 栃原裕「室内ヒートショックで入浴死は推定年間14,000人。室内温度のバリアフリーを」

ワールドレポート |
30歳からの
グランドツアー①
インドで知る巨匠の意思
— 松本崇



論評 |
東京中央郵便局:
解体して、登録文化財は矛盾
— 毛利和雄

オビニオンの視線 |
山奥の小さな本屋に
全国の絵本ファンが訪れる
— 井原万見子

建築と政治 |
「建築基準法」の
見直しに関する
検討会への期待
— 江原幸志



地域の話 |
現代住宅の
「インチキ臭」を
あぶり出す
— 渡辺菊真

各地域に拠点を置く設計事務所の
作品集
建築集